

工学資源学部機械工学科 3 年の関啓亮君は、この度文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館主催の「平成 20 年度パテントコンテスト」において入賞し、「特許出願支援対象者」に選定されました。

パテントコンテストは高校生、高等専門学校生及び大学生等の学生を対象に、知的財産マインドを育てるとともに、知的財産権制度の理解を促進することを目的に毎年開催されており、優れた発明は特許取得のための支援（特許取得の費用、弁理士の助言等）を無料で受けることができます。関啓亮君の発明名称は「ロケット分離・放出機構」であり、優れた発明として表彰され、弁理士のアドバイスの下、学生自身による特許庁への出願を行い、特許権の取得を目指すことになりました。

関啓亮君は日頃より、ものづくり創造工学センターの「学生宇宙プロジェクト」において熱心にプロジェクト活動を行っており、特にロケット分離機構に関して多くの試行錯誤の中から独創的な機構を考案したものです。さらにこのアイデアを基に設計製作し、実際にロケットに組み込み、分離回収に成功したところに大きな意義があり、その実証によって今回の受賞に結びついたものと考えられます。

この成果は、単なる受賞に留まらず、本人や一緒にプロジェクト活動を行っている学生諸君の自信に結びつくと共に、本学が進めている特色あるものづくり実践教育の成果であるといえます。

